

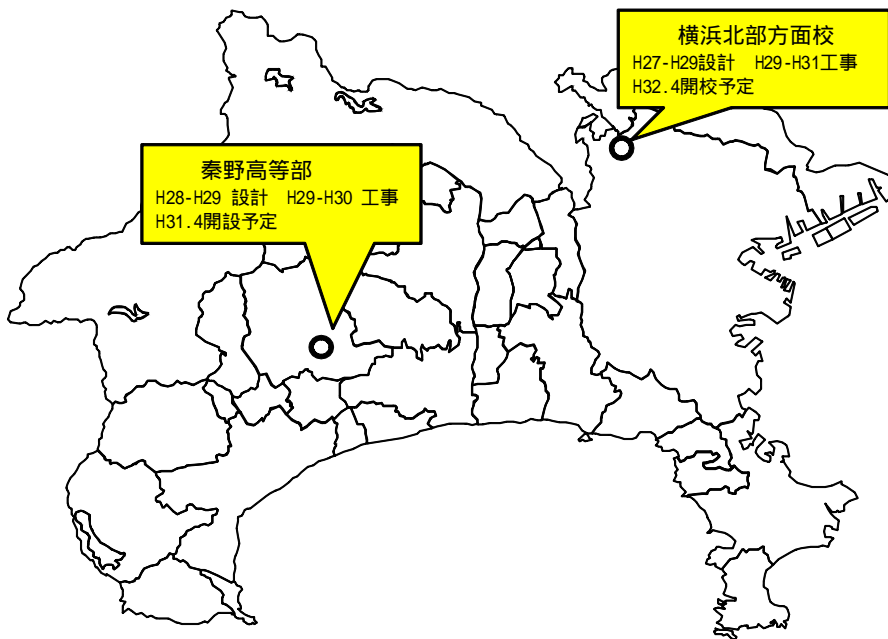
主要施策 7 特別支援教育の充実

予算額 1,118,428千円
(前年度 1,026,310千円)

【基本的な考え方】

できるだけすべての子どもが同じ場で共に学び、共に育つことを目指す、インクルーシブ教育を推進する中で、障害の重度・重複化、多様化への対応や、地域的な課題への対応を図るため、特別支援学校の整備を推進する。

併せて、県立特別支援学校に在籍する児童・生徒の通学のため、スクールバスの運行を行うとともに、特別支援学校で学ぶ児童生徒の学習理解の促進及び自立と社会参加を進めるため、児童生徒がいつでも情報機器を使用できる環境（実質的に1人に1台）を整備する。



拡 1 横浜北部方面特別支援学校の整備

64,100千円

- 横浜北部地域及び周辺地域の特別支援学校の過大規模化に対応するため、県立中里学園移転後の跡地に県立特別支援学校を新設する。(平成32年4月開校予定)

施設概要

整備予定地	横浜市青葉区みたけ台26 - 18
面積	土地：約16,000㎡ 建築：約10,500㎡
設置予定学部	小学部、中学部及び高等部
児童生徒数（予定）	約200名（肢体不自由教育部門40名、知的障害教育部門160名）

事業スケジュール

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		中里学園移転			開校(4月)
調査設計	基本・実施設計(継続費)		新築工事		
	開発審査会				
	地質調査				
	除却設計	除却工事			
	家屋調査等	家屋調査等		家屋調査等	
敷地測量	敷地整理				初度調弁

新 2 秦野養護学校高等部校舍棟の整備

32,900千円

- ・ 秦野養護学校本校敷地内に高等部校舍棟を新築（増築）することを通じて、秦野養護学校の再編を行う。（平成31年4月開設予定）
- ・ 再編内容
 秦野養護学校末広校舎の児童生徒の進学先とするための知的障害教育部門高等部の充実
 秦野市から平塚養護学校肢体不自由教育部門に通学する児童生徒の通学負担を軽減するための肢体不自由教育部門（小・中・高等部）の開設
- ・ 施設概要

整備予定地	秦野市落合500（秦野養護学校本校内）
面積	建築面積：1,078㎡ 延床面積：1,564㎡（渡り廊下含む）

・ 事業スケジュール

平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
← 基本・実施設計（継続費） →			開設（4月）
← 測量調査 →		← 新築工事 →	
← 土壌資料等調査 →			

拡 3 スクールバスの運行

957,451千円

- ・ 県立特別支援学校に在籍する児童・生徒の通学のため、スクールバスの運行を行う。
- ・ 平成28年4月のえびな支援学校の開校に伴い新たにスクールバス4台の運行を開始するとともに、既存のスクールバス8台の更新を行う。

既 存	継続分	9 5 台	-
	更新分	8 台	保土ヶ谷養護学校（3台） 相模原中央支援学校（2台） 武山養護学校（3台）
運 行 開 始		4 台	えびな支援学校
計		1 0 7 台	



4 特別支援学校への情報機器の整備

63,977千円

- ・ 特別支援学校（全28校）において、児童生徒がいつでも情報機器を使用できる環境（実質的に1人に1台）とするため、500台の情報機器を整備する。

（問い合わせ先）教育局支援部特別支援教育課 課長 横澤 電話 045-210-8214